

令和4年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第二小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第4学年の「かけ算の筆算に出てくる数の意味の理解」に関する問題、説明する問題において目標値を12ポイント上回る結果となっている。筆算の計算を繰り返し練習する活動を重視してきた成果と思われる。
- ・第5学年の「折れ線グラフの読み取り」は、目標値を9ポイント上回る結果となっている。グラフをかかせる活動や、身の回りの生活と関連付けてグラフを読み取らせる活動を重視した成果と思われる。
- ・第6学年の「合同な図形の作図」に関する問題では、目標値を4ポイント上回る結果となっている。授業の中で、繰り返し作図する活動を重視した成果と思われる。

(2) 課題

- ・第4学年では「長さ・重さ」に大きな課題がある。単位の変換を確実に定着させるために、繰り返し練習するとともに、計器を使って実際に測る活動を充実させ、体感的に単位の関係性を理解させる必要がある。
- ・第5学年では「概数の表し方」に大きな課題がある。指定された桁数で正しく概数に表すための練習を繰り返し行い、確実に定着させる必要がある。また、「ひし型の作図」に大きな課題がある。作図の技能だけでなく、それぞれの図形の特徴を着実に定着させる必要がある。
- ・第6学年では「小数」「分数」の計算に大きな課題がある。小数ではかけ算わり算、分数ではたし算ひき算の定着率が低いため、繰り返し練習させ定着させる必要がある。図形分野ではひし型、台形の面積の求め方に大きな課題があり、図形の特徴から確実に定着させたい。データ活用分野では「グラフの読み取り」にも大きな課題があるため、数量の読み取りから、グラフから読み取れる情報を自分の言葉で説明できるよう指導を行う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）・平均正答率と目標値の比較 △：目標値以上 ▽：目標値未満

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に 取り組む態度 ▽		
第5学年	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に 取り組む態度 ▽	(第4学年時) 知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 △ 主体的に学習に 取り組む態度 △ ▽	
第6学年	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に	(第5学年時) 知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に	(第4学年時) 知識・技能 △ 思考・判断・表現 △ 主体的に学習に

	取り組む態度 ▽	取り組む態度 ▽	取り組む態度 △▽
--	----------	----------	-----------

(2) 分析 (観点別)

① 中学年 (4年生)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>平均正答率は、目標値をわずかに下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かけ算の筆算に出てくる数の意味の理解」「長さを測るのに適切な計器の選択」は目標値を大きく上回っている。 ・「数直線での分数の読み取り」、「球の半径の読み取り」が目標値を大きく下回っている。 	<p>平均正答率は、目標値を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わり算の余りの切り上げ処理の説明」は目標値を大きく上回っている。 ・「m (ミリ) のついた単位の大きさの説明」「道のりの合計の説明」は目標値を大きく下回っている。 	<p>平均正答率は、目標値をわずかに下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1分=60秒の関係の理解」は目標値を上回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>平均正答率は、第5学年、第6学年ともに目標値を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5学年は「割合」、「折れ線グラフの読み取り」が目標値を上回っている。また、「概数の表し方」「ひし形の作図」が目標を大きく下回っている。 ・第6学年は、計算、図形、変化と関係、データ活用の分野で目標値を下回っている。 	<p>平均正答率は、第5学年、第6学年ともに目標値を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5学年は、「複合図形の面積」が目標値を大きく下回っている。「計算のきまり」が大きく目標値を上回っている。 ・第6学年は、計算、図形、変化と関係、データ活用の分野で目標値を下回っている。 	<p>第5学年、第6学年ともに目標値を下回っている。学習に意欲的に取り組ませる方策を考える必要がある。</p>

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○具体物の操作や図を活用し、数量や図形についての知識、技能を習得させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年は、くり上がり、くり下がりの計算を、第2学年は、かけ算九九は確実に定着させる。 	<p>○具体物の操作や図を活用し、式の意味を考えさせるとともに、演算決定につながる言葉を意識させ立式させる。</p>	<p>○ICTの活用や問題の提示の仕方、教具の工夫を行い、児童に興味、関心をもたせる。</p>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○計算は、プリント、ドリルを活用し、繰り返し練習させる。特に九九は100ます計算を活用し、素早く正確に計算できるように練習させる。 ○具体的な操作活動（作図等）を通して、図形の性質を理解させる。	○図や数直線を活用して根拠をもって立式し、説明することができるようにする。 ○友達の見解や発表から、自身の考えをさらに深められるように問いかけをする。	○ICTを活用し、身の回りの生活と結び付けたり、操作を視覚的に示したりすることで、児童に興味、関心をもたせる。 ○自分の考えを示したり、友達と考えの交流を交流したりする活動を通して学び合う楽しさを実感させる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○計算は、プリントやドリルを活用し、繰り返し練習させる。 ○数量関係を図、数直線等を活用して整理し、問題解決に向かわせる。	○図、数直線等を活用して根拠をもって立式し、説明することができるようにする。 ○具体的な操作活動から、図形の性質等を理解できるようにする。 ○友達の見解や発表から、自身の考えをさらに深められるように問いかけをする。	○ICTを活用し、身の回りの生活と結び付けたり、操作を視覚的に示したりすることで、児童に興味、関心をもたせる。 ○既習事項を振り返りながら、新しい課題に取り組むことができるようにする。 ○数学的活動を取り入れ、日常生活と算数との関わりに目を向けさせ、関心を高める。